

第2学年生活科学学習指導案

「地域との関わりを通して共に学び合い高め合う児童の育成～地域の特徴を生かした相っこ学習の充実～」

1 単元名 めざせ野さい作り名人（教育出版下）旧版

2 単元の目標

野菜などの植物を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、適切な世話の仕方、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、植物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考、判断、表現力	主体的に学習に取り組む態度
野菜などの植物を育てる活動を通して、適切な世話の仕方やそれらは生命を持っていることや成長していることに気付いている。	野菜などの植物を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	野菜などの植物を育てる活動を通して、植物への親しみを持ち、大切にしようとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元で扱う野菜の栽培は、学習指導要領では以下のように位置付けられている。生活科の内容

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみを持ち、大切にしようとする。

本単元は、ミニトマト・トウモロコシ・サツマイモを自分からすすんで世話をしたり、収穫をしたりする活動を通して、植物に興味・関心を持ち、これらが生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物を大切にすることを養うことをねらいとしている。1年生の活動では主に花（アサガオ）の栽培をし、成長の過程を観察・記録し、花の開花や種とりをして、生命のつながりを実感した。本単元では、トウモロコシを種からミニトマトとサツマイモを苗から栽培し、観察したり収穫をしたりする経験を通して、野菜の種類や季節によって収穫できるものに違いがあることを知り、栽培意欲や野菜への関心を高めていきたい。

(2) 児童観

毎日交代で、ミニトマトの水やりやわき芽つみ、雑草取りなどを積極的に行う中で、少しずつ興味関心が出てきた。児童から「葉っぱが大きくなった」「花が咲いた」「実ができている」など、成長を楽しむ声も挙がっている。また、家庭で野菜を育てている児童も多く、野菜を育てたい気持ちが強い児童がいる。

しかし、トウモロコシとサツマイモは、吉川さんの畑をかりて栽培しているため、日々の水やりや世話ができないため興味が薄い児童も少なくない。そこで、ミニトマトの成長を観察する中で、野菜が成長して変わっていく様子を共有させたり、世話の仕方を考えさせたりするグループ学習活動を取り入れた。その中で困ったことやもっと知りたいことを教科書や本で調べたり、インタビューしたりして世話を実践し、より野菜に愛着をもたせていきたいと考えた。野菜の世話や観察での個々の気付きを、グループや全体に伝え合う活動を重ねながら、自分では気付かなかった類似点や相違点にも目を向けられるようにしていくことで、成長する野菜の生命を感じ、大切に育てていこうとする意欲を高めていきたい。

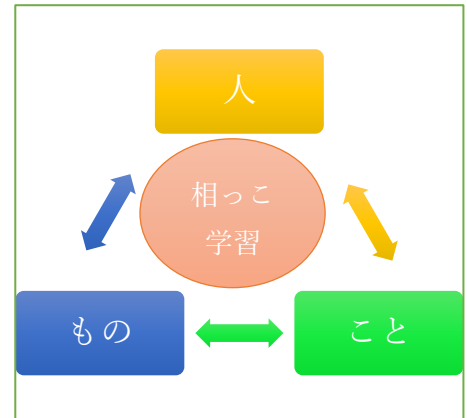
(3) 教材観

1年生の時に、アサガオを育てていく中で、成長の過程や観察、世話を行ってきた。2年生では、これらを活かし、さらに植物への関わり合いを深めるために、野菜を育てて収穫する活動を行う。その活動の中で、自分の思いや願いを達成していく楽しさを感じながら、活動への意欲を高めていく。同時にこれまでの栽培経験を基に、試行錯誤しながら、野菜を育てたり、他の野菜と比べたりして、観察や世話の仕方を自分なりに工夫する力を培う。また、野菜が生命をもち成長していることに気付くだけでなく、活動を通して自分自身も成長しているという喜びや、自分の力で栽培することができたという自信から、さらに植物の栽培に興味・関心をもたせていきたい。

5 校内研究との関わり

(1) 低学年分科会が考える学び

相っこ学習における「人」とは、自分、学習に携わる地域の方（VC・吉川さん・里山の会・栄養士・校長）であり、「もの」とは、食べ物＝野菜であり、「こと」は、収穫祭である。「野菜」を教材に、多くの「人」と関わる中で、「もの」野菜への興味・親しみを抱き、「人」や食べ「もの」への感謝、野菜作りや学習の工夫の仕方を学び、「こと」収穫祭を通して学んだことを、お世話になった「人」・これから学習していく「人」（1年生）に伝えていく。そして、さらに新たな学習が広がっていく。



生活経験と新しい知識をつなげて自分の考えをもち、互いの考えを比べ合ったり、認め合ったりして、よりよい考えをもつことができる姿。

(2) 本単元における共に学び合い高め合う姿

- ・野菜を育てていく中での気付きや疑問を友達に話したり、それを解決するための方法をどういうやり方で調べたら良いかを考えて、聞いたり調べたりして、栽培活動に生かすことができる姿。
- ・観察カードから自分の野菜（ミニトマト）についてまとめ、自分が育てた野菜と吉川さんが育てた野菜（トウモロコシ・サツマイモ）を比べ、類似点や相違点を話している姿。
- ・野菜作りをして知ったことや分かったことを生かして、自分でも野菜を育ててみようという意欲をもつことができる姿。

(3) 研究主題に迫る具体的な手立て

① 単元・授業構成の工夫

- ・他教科と地域とのつながり

国語科の「かんさつ名人になろう」で、観察の仕方や記録の仕方について学習したことを活かし、観察カードの記録をできるようにする。学校の畑では、ミニトマトを苗から植え、根、茎、葉の様子を観察することで、野菜や野菜の成長への興味や関心を高める。

図工では、「不思議な種から」ぐんぐん育ったびっくり野菜を考えて描く「大きくそだて、びっくりやさしい」の単元で、自分たちが育てている野菜が「このように育ったらおもしろいね。」「楽しいね。」と話し合いながら、野菜への親しみをもって造形活動に取り組んでいる。

地域の畑（吉川さん）を借りて、トウモロコシとサツマイモを育てる。トウモロコシは、1年生の3学期に種をまき、2年生の4月に苗を植える。5月におろぬきをし、6月に収穫予定。サツマイモは、6月に苗を植え、秋の収穫を待つ。トウモロコシやサツマイモが収穫できたら収穫祭をし、収穫の喜びを地域の方と分かち合う予定。

②まとめの工夫

野菜名人になるための学習の流れを、観察カードや写真や苗の模型をもとに世話の仕方や成長の様子を模造紙にまとめる。自分が紹介したい野菜について、少人数グループで制作する。

③振り返りの充実

観察や世話を繰り返す中で、気付いたことや大事なことを発見カードに記録したり、同じグループの友達と話し合ったりする中で、自分たちの活動を振り返り、次にどんな世話をしたり、世話の仕方を調べたり聞いたりすると良いかを考えたりできるようにし、気付きを深めることができるようにする。

7 単元の指導計画と評価計画(全70時間扱い)

時	目標	○主な学習活動	◇評価規準
1	育ててみたい野菜について話し合い、1年生で花を育てたことを思い起こして、野菜を育てる時期や場所に気付き、野菜を育てる計画を立てることができるようにする。	めざせ野菜作り名人 ○学校の畑の使い方を話し合い、自分達で栽培する野菜を決める。 ・ミニトマト 5/7 ・トウモロコシ 4/15 6/26 ・サツマイモ 6/4	◇野菜の種類をあげ、栽培に必要なことを考えている。【思】 ◇野菜について関心をもって、栽培に必要なことを考えている。【主】 ◇育てる野菜に合った世話の仕方があることに気付いている。【知】
2	植物を育てた経験を生かして、育てる野菜を育てる場所の計画を立て、野菜にあった世話の仕方があることに気付き、おいしい野菜を育てたいという願いをもつことができるようにする。	畑の作り方を調べよう (4/23) ○畑の作り方を教えてくれる畑名人(吉川さん・里山の会)を校長先生にお願いして紹介してもらう。 ○苗の植え方を吉川さんに教えてもらう。	◇植物を育てた経験を生かして、育ててみたい野菜を選んだり、育てる場所を決めたりしている。【思】 ◇おいしい野菜を育てたいという願いをもって計画を立てようとしている。【主】
3 ・ 4	世話の仕方を調べたり、詳しい人に聞いたりして、適切な方法でたねや苗を植え、大切に育てることができるようにする。	苗を植えよう (5/7) ○畑名人(里山の会)と畑を作り、ミニトマトの苗を植える。	◇苗の特徴や野菜に合った世話に気付いている。【知】 ◇野菜を育てるためにどんなことに気を付けたらよいのかを考えている。【思】 ◇苗や種を大切に扱い、土を作ったり、苗を植えたり世話をしたりしようとしている。【主】
5	世話の仕方を調べたり、詳しい人に聞いたりして、支柱建屋追肥などの適切な世話をし、野菜の成長や変化に関心をもって観察したり世話をしたりできるようにする。	世話をしよう (6~7月) ○ミニトマトの世話のしかたを本で調べたり、インタビューしたりし、必要な当番を決める。	◇野菜にはそれぞれ適した育て方があることに気付いている。【知】 ◇わからないことについて調べたり、詳しい人に聞いたりしたことを活用し、育てたり観察したりしている。【思】 ◇野菜の成長の様子に関心を持ち、大切に世話しようとしている。

国語 10時間	経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。	観察の仕方を調べよう（5～6月） ○国語「かんさつ名人になろう」の学習から、観察の仕方を学ぶ。	
国語	自分の伝えたい観察物の様子や動きを観察記録分に詳しく書くことができる。	ミニトマトの観察をしよう ○ミニトマトを観察し、成長の様子をカードに記録する。	
6	観察記録文を読んで友達と相違点を話し合い、成長したこととに気づくことができる。	○ミニトマトの観察カードを紹介しながら、気づいたこと、世話で大事なことを出し合い全体で共有する。	
道徳	身近な自然に親しみ、動植物に優しい心を持って接しようとする態度を育てる。	○ミニトマトの世話でうまくできたこと、うまくいかなかったことなどを出し合い全体で共有する。	
7・8	野菜の結実とこれまでの自分の世話を関連付けて捉え、野菜にも生命があることに気づき、継続して育てた自分への自信をもつことができるようにする。	収穫しよう。（ミニトマト7～8月、サツマイモ10月30日） ○熟した野菜を収穫する。 ミニトマト持ち帰り	野菜を栽培して収穫する中で、自分が世話を工夫したことで植物が大きく成長したことに気付くとともに、植物を育てることのよさを実感し、これからも継続的に生き物と関わろうとすることができるようにする。
9・10	さまざまな出来事を振り返りながら後片付けをし、育てた野菜への親しみが増したことに気づき、自分で野菜を育てたことへの自信をもつことができるようにする。	○収穫したときの気持ちや気づいたこと、大事なことを出し合いまとめる。	
11 12 20	ミニトマトの終わり方を話し合い、次の学習計画を立てる。	○ミニトマトの片づけと、大根用の畑づくり。大根のたねまき。（里山の会） ○大根のお世話（雑草取り、水やり）。	

2 1 5 0	野菜を育てたことを伝え合 い、野菜への親しみが増した こと、上手に世話ができるよ うになったことに気づき、こ れからに生かし、豊かに生活 することができるようにす る。	○収穫したサツマイモを使って、 調理練習。 ○調理での気づきや食べた感想を 出し合いまとめる。 ○収穫祭について話し合う。 ○大根の収穫 ○大根調理	
5 0 6 8		○収穫祭の計画・準備	
6 9 ・ 7 0		収穫祭をしよう（12月24日） ○野菜名人になるために力を貸し てくれた方々を招待して、学習の まとめを発表し、感謝の気持ちを 伝える。	

<成果>

- ・VC と連携して、学習のねらいに沿って GT（吉川さん・里山の会・VC さん）を活用することができた。
- ・畑に植えたことにより、世話がし易く実りも良い。
- ・ミニトマトは朝顔の鉢に植えて、畑にはトウモロコシ・サツマイモを植える方が良い。吉川さんの畑に行かないと成長の様子がわからないので、成長の様子を見つつ、お世話をする経験をさせるため。
- ・図工の「びっくりやさい」から生活科と関連付けて作品作りを行うこととし、「絵手紙（野菜）」「野菜のお世話・収穫の絵」を作品展に出品することとした。制作した3作品の中から自分が満足している作品を選んで出品するので、2年生はバラエティに富んだ作品展となった。
- ・1・2学期通して野菜名人に取り組むことを児童が決めたので、収穫祭も見通して学習の準備に意欲的に取り組む姿が多々見られた。収穫祭では、お世話になった方々に、お礼の手紙（図工時に作成した絵手紙）、活動時の写真をプレゼント。また、自分たちで育てた大根を調理（漬物）しておもてなしする。
- ・収穫祭で、お世話になった方々に自分達の育てた大根を披露したいということで、大根を漬物にすることにした。レシピは、児童が調べ、調理の仕方を児童が決めた。包丁は使えないので、ピーラーによる調理。ピーラー使用については、家庭に呼びかけ、家庭で練習をしてもらった。調理当日は、my ピーラーを持参した。大根調理の練習として、掘ったサツマイモをピーラーでスライスし、バター・塩で味付けして食べた。サツマイモ調理では、ピーラーで5人けがをしたが、大根では0人。家庭での練習のおかげでピーラーの扱いは上手だった。
- ・収穫祭に吉川さんは、いらっしゃらなかったけれど、中島さんが手紙・写真・漬物を届けてくださり、とても喜んでた様子を見事に伝えてくれた。地域の方との連携で、互いに喜び合える学びができた。

<課題>

- ・今年度から運動会もプール指導も低学年で行うことになり、運動会とサツマイモの苗植え、プール指導とトウ

モロコシの収穫の日程調整が大変難しかった。トウモロコシかサツマイモのどちらかに絞るべきか、どちらかを1年生の学習に組み込むか検討したい。また、吉川さんの畑には、苗を植えるだけで、お世話を全くしないままに収穫なので学習とはいいがたいので、相原畑に世話用のトウモロコシ・サツマイモを植えるべきか。相原畑に植えるものは（トウモロコシ・サツマイモ・大根）、学年費で買う方が良い。

・ミニトマトを畑に植えたことにより、苗が折れるトラブルが発生。休み時間にビオトープ～畑周辺で遊ぶ児童がいるため苗を守る工夫が必要。

・夏休み中のトマトの収穫は、保護者同伴で平日8:30～16:30 可能とお便りに記載した。

・畑のミニトマトは持ち帰りができないので、夏休み中に収穫をどうするか悩んだ。次年度は児童用植木鉢に植えることを勧める。

・今年度は、2学期も「野菜を育てて食べたい」「自分たちで育てた野菜で、お世話になった人にお礼がしたい」という話し合いになったので、2学期にトマトと雑草を片付け、大根を育てることになった。6年生に畑使用の確認をし、2年生の場所+6年生の場所まで拡大して大根を植えた。2学期に畑を使えるかは、4年生と6年生に確認する。

・収穫した大根（大小含め60本ほど）を全て調理したので、大量の漬物が出来上がった。予定していなかった、児童の漬物持ち帰りも実施し、職員への配布もしたが、たくさん余ってしまった。

<参考までに>

・ミニトマト苗…一人一本私費購入

・畑づくり用肥料…40ℓ 1袋私費購入

・マルチシート…里山の会 →今後どうする？

・支柱…学校保存の物

・追肥…学校保存の物 →次年度は私費購入すべき？

・枯れた児童用の苗…VCが善意で3本購入してくれた →次年度は、予備苗も含めて学年費で購入

・大根の種…児童との話し合いで急に決定したので会計に間に合わず、担任実費。

・サツマイモ調味料…キッチンペーパー・追加サツマイモ・バター・塩を担当が購入。

レシートをPTAに渡し、学年費で会計。

・大根調味料…はちみつ・りんご酢・砂糖・紙コップ・爪楊枝・を担当が購入。サツマイモと同様の会計。